

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2018.6



写真で振り返る

国立国会図書館の70年

資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ



686号 2018年6月

国立国会図書館 月報

NO. 686
JUNE 2018

CONTENTS

1 アフリカに消えた宣教師を探せ！
新聞記者の冒険

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

4 写真で振り返る

国立国会図書館の70年

17 資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ
行こう！ 墨の国！

24 講演会 子どもの本よ、世界へ届け！
— ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの

16 館内スコープ
ハイブリッド？

23 本屋にない本
『醤油手帖』

26 開館70周年記念展示 本の玉手箱
— 国立国会図書館70年の歴史と蔵書 — から④
『The birds of America』

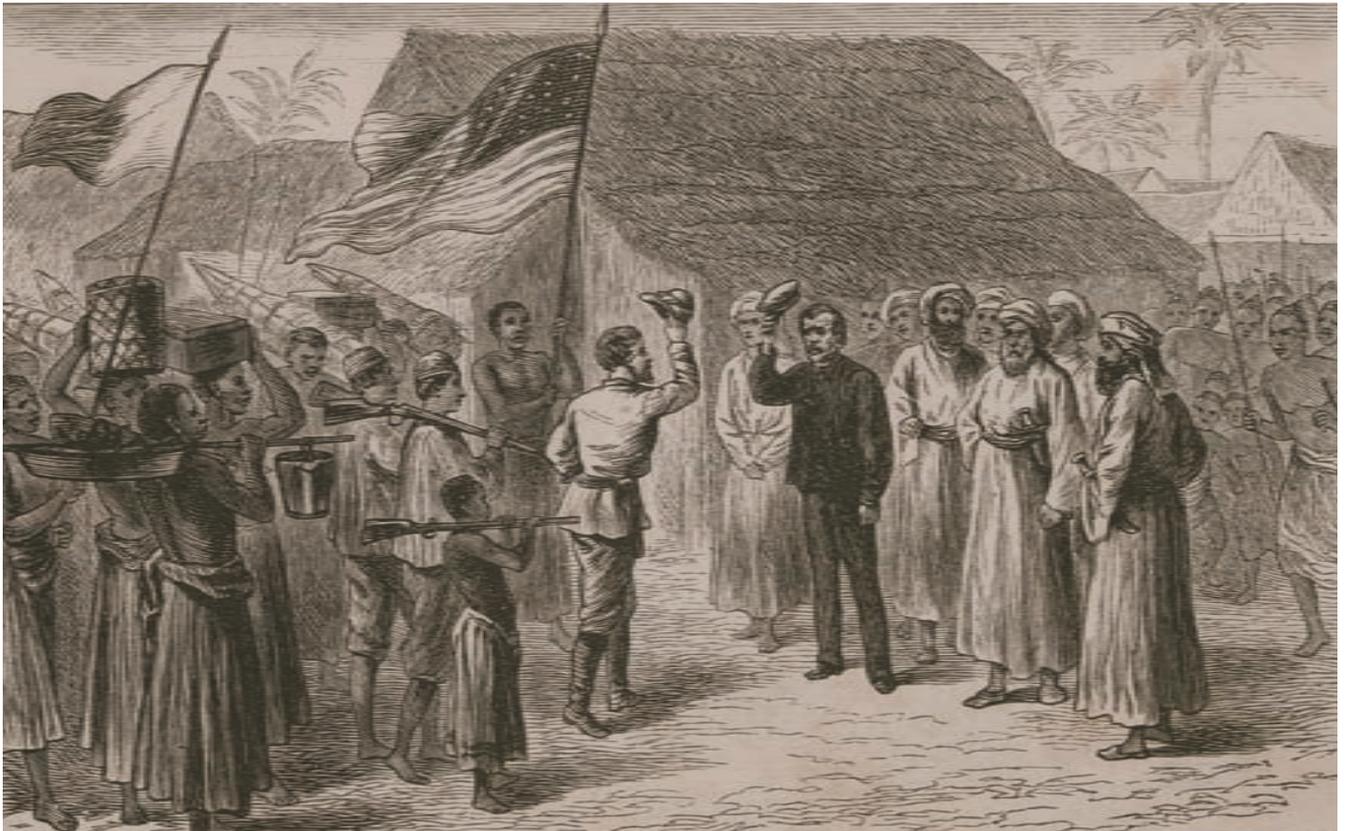
27 NDL Topics



表紙：
「新はん 猫のうなぎや」 芳藤 画
『芳藤手遊絵尽』
[大正 8] (1919) 年 温故木版印刷会 42 枚 19 cm
<請求記号 186-246 >

アフリカに消えた宣教師を探せ！ 新聞記者の冒険

宇野 亮一



スタンリーがリビングストンを発見した場面

How I found Livingstone : travels, adventures, and discoveries in Central Africa / by Henry M. Stanley (Asher's collection of English authors ; v. 54)
<請求記号 60-131>

「リビングストン博士とお見受けしますが (Dr. Livingstone, I presume?)」
アフリカの奥地で、帽子を取り、丁寧に問いかける。当時のイギリスで流行語となった、その一言を世に広めたのがこの本です。

イギリス生まれの記者、スタンリーは、1869年、ニューヨーク・ヘラルド新聞からの依頼を受けてタンガニーカ（現タンザニアの大陸部）に赴きます。目的は、1866年から同地で行方不明となっていたイギリス人宣教師・探検家リビングストンを探し出すことでした。リビングストンは長年アフリカ各地を探検し、奴隷貿易の禁止にも大きな影響を与えた人物ですが、消息を絶って数年とあって、多くの人がすでに死亡したとみなしていました。そこで彼を「発見」できれば、大きな話題となるでしょう。

当時のタンガニーカは、まだヨーロッパ諸国によって植民地化されてはおらず、多くの民族が各地に散らばって住んでいる状態でした。スタンリーは現地人を雇い入れ、大規模な部隊を編成して内陸へ向かいます。5隊に分かれて海岸の町バガモヨを発ったのは1871年3月のことでした。各民族に贈り物をして食

右：スタンリーが経由したザンジバル（現タンザニア）の風景

左上：現地の紛争に介入するスタンリー

左下：大規模な部隊で内陸へ向かう様子



料を得たり、リビングストーンを見たという情報を聞いたたり、ときには現地の紛争に介入したりといった行動が描かれています。当時の西洋人にはあまり知られていない「暗黒大陸」を探検する行程を、読者はワクワクしながら読んだことでしょう。

現地の人々は、食料や情報を提供することもありますが、足止めし多くの贈り物を求めることもあります。いっぽうスタンリーも、現地のスワヒリ語などを使いこなして交渉し、一歩も引きません。この探索行の十年ほど後には、いわゆる「アフリカ分割」が行われ、タンガニーカはドイツの植民地とされてしまいましたが、それ以前の時代、白人相手に遠慮ない交渉をする現地の人々の姿は（スタンリーがどう思ったかはさておき）現代から見れば小気味よく見えるかもしれません。

また、スタンリーは数十人の部隊員の名前や出身地を列挙したり、ガイドや通訳の個性を詳しく説明したりもしています。「怠け者だ」等の手厳しい評価もありますが、褒めることもあり、また途中で脱落した白人メンバーにも容赦がないので、ある意味白人にも黒人にも平等な筆致です。

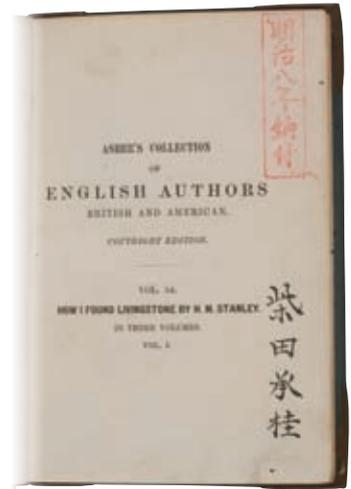
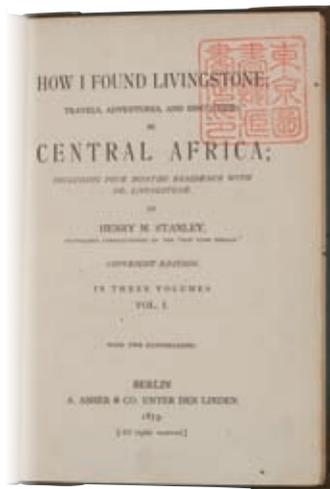
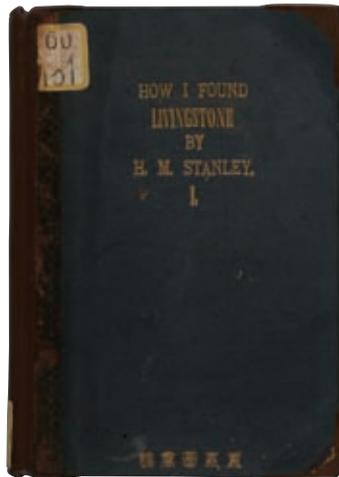


『亜弗利加内地蘇丹令探検実記』
<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/767270>
 (モノクロ) 表紙より、スタンリー肖像

東京図書館で製本された表紙

東京図書館の蔵書印が押された標題紙

柴田承桂の署名がある副標題紙



○参考文献

H.M.スタンリー著、仙名紀訳『緑の魔界の探検者』1995.1<GF143-E6>

Oxford dictionary of national biography / edited by H.C.G. Matthew and Brian Harrison. 2004 <GG12-B21>

The life of Florence Nightingale / by Sir Edward Cook. 1913<208-17>

国立国会図書館 電子展示会「近代日本人の肖像」柴田承桂の項 <<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/102.html>>

スタンリーはリビングングストンの足取りを追って内陸へと進み、1871年11月、タンガニカ湖沿いのウジジという村で療養していたリビングングストンを発見します。海岸のバガモヨを出発してから、実に236日目のことでした。冒頭に引いた言葉は、そのときのものです。リビングングストン発見の驚きに加え、イギリスの街中で出会ったかのような丁寧な言葉と帽子を取る仕草が、未開の地と思われていたアフリカでも行われた意外さが、この言葉を流行させたのでしょう。あのナイチンゲールもこの冒険記を夢中になって読んだと、友人への手紙に書いています。

さて、先ほど書いたとおり、探索行の十年ほど後にタンガニカを植民地化したのはドイツでした。そして実は、今回紹介している国立国会図書館所蔵のこの本は、ドイツで1873年に出版されたものなのです。英米での1872年11月の出版から間をおかずに出版されたことは、リビングングストン発見がイギリスだけでなく西洋各国で話題となったことを示していると同時に、アフリカに進出しようとする当時のドイツの傾向が反映されていると読むのは、少々がちすぎでしょうか。

表紙と口絵をめくると、購入者があとから記入した「柴田承桂」という名前が書かれています。柴田は有機化学者・薬学者で、この本が出版された1873年当時はドイツに留学中でしたから、そこで買い求めたのでしょう。1874(明治7)年に帰国しており、「明治八年納付」という印から、帰国後に彼がこの本を寄贈したことが分かります。探検をするスタンリーやリビングングストン、彼らを迎えるアフリカの人々、それを読むドイツ人。彼は、そしてこの本を読んだ日本人たちは、どの立場に自分を重ねたのでしょうか。

蔵書印には「東京図書館」とありますので、彼が帰国後に教鞭をとった東京医学校(東京大学医学部の前身)ではなく、公共図書館に寄贈したことになります。医学に直接関係する内容ではないからかもしれませんが、この本をより多くの人に読んでほしいという思いもあったのかもしれません。そして年月を経て、こうして国立国会図書館の蔵書となっています。

この本を請求し、図書カウンターで受け取ったら、遠来の客に対する敬意をこめてこう思えるかもしれません。

「ヘンリー・スタンリー卿とお見受けしますが(Sir Henry Stanley, I presume?)」





写真で振り返る 国立国会図書館の70年

国立国会図書館は、1948年6月5日に
旧赤坂離宮（現迎賓館）において開館しました。
今回は、70年間のさまざまな瞬間を写真で振り返ります。



写真で振り返る国立国会図書館の70年

1948

国立国会図書館の誕生



1948年夏、発足直後の国立国会図書館を援助するため来日したロバート・B・ダウンス米国イリノイ大学図書館長と握手する金森徳次郎館長と中井正一副館長（右隣）

1947年12月、衆・参両議院の要請により米国図書館使節団が来日し、議員の調査研究に資するとともに、日本で出版される資料の納入を受けて目録を作成し、また、全国民に対し図書館サービスを提供する図書館としての国立国会図書館の基本構想を発表しました。この構想に基づき、1948年2月9日国立国会図書館法が制定、同年6月5日、旧赤坂離宮において開館しました。

赤坂本館(1948年-1961年)



国立国会図書館には二つの源流があります。

一つは帝国議会貴族院・衆議院の図書館で、1890年、両議院の事務局に図書管理の編纂課が設置されたことに始まります。1936年には、現在の議事堂の竣工に伴い、議事堂内に図書室が開設されました。

もう一つの源流である帝国図書館の系列は、1872年に開設された文部省所管の書籍館にさかのぼります。帝国図書館は、1906年上野公園の音楽学校敷地内に建てられ、上野図書館の名で親しまれました。また、ルネッサンス様式の建築は、豪壮な外観に加え内部装飾も華麗で、世の注目を浴びました。戦後は国立図書館と改称、1949年4月、国立国会図書館に統合されます。



第一次仮議事堂



書籍館は1875年、東京書籍館と改称、湯島聖堂の大成殿に場所を移しました。

二つの源流—議会図書館と帝国図書館



帝国図書館（1906年新築当時）



帝国図書館大閲覧室

写真で振り返る国立国会図書館の70年



三宅坂分室



旧赤坂離宮（現迎賓館）は、ネオバロック様式の壮麗な洋風建築ですが、図書館として利用するには不向きでした。そこで、永田町本庁舎建築までの間、国会奉仕の便を図り、同時に赤坂本館のスペース不足を補うため、三宅坂に仮庁舎（三宅坂分室）を建て、調査及び立法考査局、国際業務部、一般考査部の一部を移転しました（1949年9月）。この時期の国立国会図書館は、赤坂、上野、三宅坂の三つの施設で運営されていました。

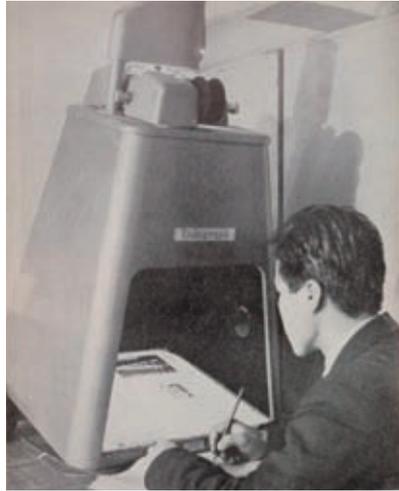
赤坂本館の閲覧の様子



赤坂時代の様子



レコードコンサート



マイクロフィルムの閲覧



逐次刊行物の整理



事務室の様子



憲法資料展示会（1951年 羽衣の間）

納本制度



納本制度とは、図書等の出版物をその国の責任ある公的機関に納入することを発行者等に義務づける制度です。出版物を国の責任で収集し、国民共有の文化財や情報資源として保存、後世に伝えるという大きな意義もっています。

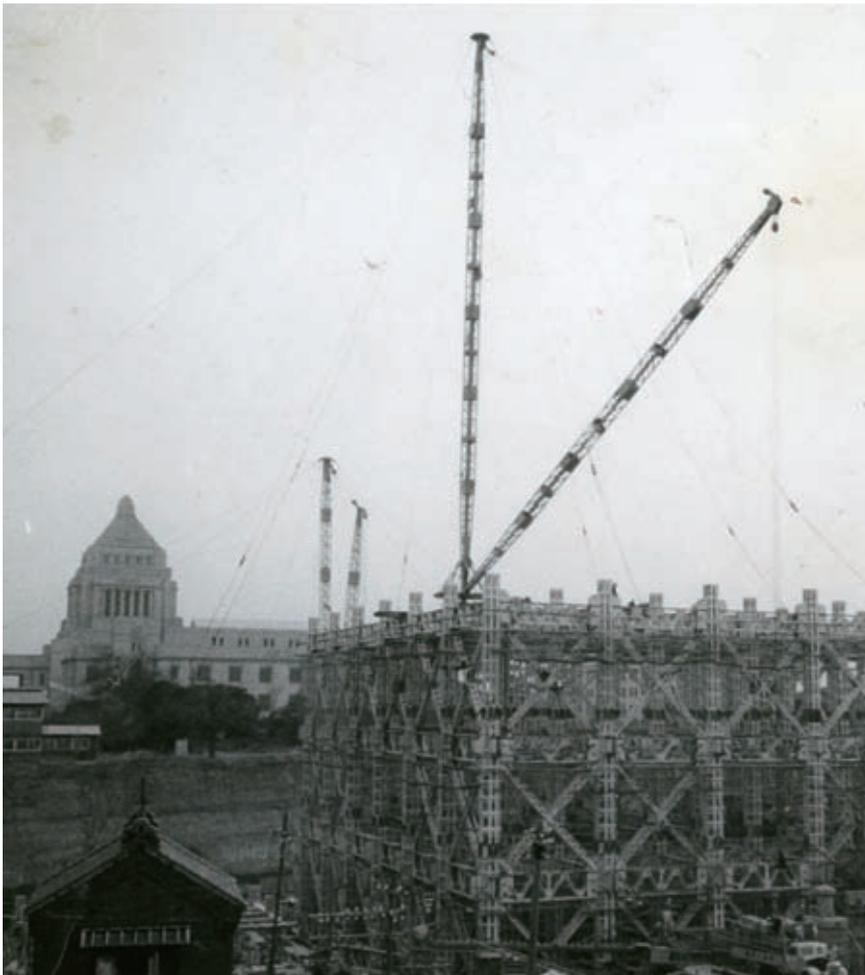
日本では、国立国会図書館がこの制度の運用を担っています。開館と同じ年に、この制度の運用が始まりました。左は、納本制度で収集した資料をもとに国内の出版物を記録するため、1948年秋に創刊された『納本月報』です。のちに『納本週報』『日本全国書誌』と変遷していきます。

写真で振り返る国立国会図書館の70年

1961年7月、念願の本庁舎第一期工事が竣工し、本館は仮庁舎であった旧赤坂離宮から移転しました。

次いで、1968年には第二期工事が竣工し、本館建築が完了しました。

赤坂離宮から永田町へ



1961



本誌の創刊もこの年です



第二期工事



第一期工事が完成した状態の東京本館

1968



カード目録が並ぶ目録ホールの様子



開館を待つ利用者（1965年頃）



全館完成・開館20周年記念式典



永田町への資料移転

永田町本庁舎への移転は、第一期工事が竣工した1961年8月1日に始まりました。

移転資料は赤坂、三宅坂および国会議事堂内にあった蔵書計110万冊、支部上野図書館の蔵書約90万冊、その他を合わせると約200万冊余にも及びました。



（左・右上）赤坂離宮からの運び出しの様子（右下）東京本館への運び込みの様子

写真で振り返る国立国会図書館の70年

業務機械化の始まり

国立国会図書館の機械化は、まず、書誌データの作成から始まりました。

1970年代初頭にコンピュータが導入され、さまざまな書誌の機械編纂が試みられました。その過程では、日本語の漢字情報処理に多くの努力が費やされました。



電子計算機室開設式に臨む久保田義麿館長（1970年）



漢字テープ穿孔機の鍵盤（1978年）

1970



新館の電算機室



新館完成時にオンラインになった漢字入力装置。なお、1990年代に入っても、書誌作成部門がシートに記入した内容に従い、パンチャーが入力していた。



下に散らばっているのは紙テープ。初期のデータ入力は、漢字テープ穿孔機により紙テープにパンチして、テープ読み装置から入力していた。それを磁気テープ（手で持っているもの）に移す。

「新館」建設

1986



新館建設の様子

1986年には、本館北側に新館が完成し、本・新館の書庫を合わせて1,200万冊が収蔵可能になり、閲覧スペースも拡充されました。



国際シンポジウム「21世紀の国立国会図書館」(1996年)



IFLA（国際図書館連盟）東京大会（1986年）



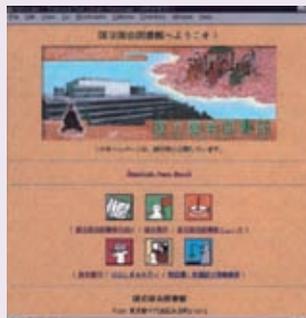
複写カウンター

業務機械化から「電子図書館」へ

1980年代には、ネットワークを介したオンラインのシステムが徐々に構築されます。1990年代には、さまざまな実験事業にも取り組み、1998年には「国立国会図書館電子図書館構想」を発表します。



利用者向けの検索端末（J-BISC 端末）



最初期のNDLホームページ(1996年)



和図書オンライン検索



児童書の電子図書館実験システム



画面イメージ

2002

関西館、国際子ども図書館の設立



関西館の総合閲覧室

2002年10月に関西館がオープン。国際子ども図書館は、支部上野図書館（旧帝国図書館）を改修し2000年に部分開館、2002年に全面開館しました。

電子図書館事業の中核となった「近代デジタルライブラリー」や「NDL-OPAC」も2002年10月に始まりました。資料のデジタル化は2010年頃から大幅に加速します。



国際子ども図書館



データベースフォーラム



関西館開館記念式典



パッケージ系電子出版物の納本開始
(2000年)



開館50周年記念式典（1998年）

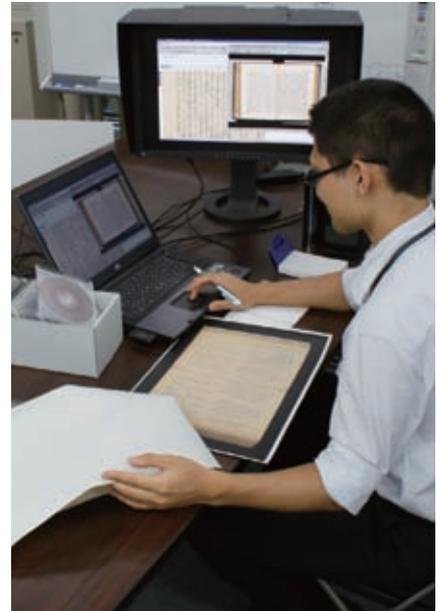
写真で振り返る国立国会図書館の70年



国際子ども図書館アーチ棟 (2015年)



東日本大震災で書架から落下した資料の復旧



大規模デジタル化実施本部での作業

2018 70周年



現在の東京本館ホール (2017年)



総務部有志

「過去を読み、未来を読む。」が、国立国会図書館開館70周年記念の標語です。昨年6月、館内で標語案の募集があり、応募してみたところ、何の因果か私の提出した案「未来も読める図書館へ」が原案のひとつとして採用されました。

当初、私は案を提出するつもりではありませんでした。課の新人Sさんが、案の集まりが芳しくないことを聞き付け、応募を勧めてくれたため、1年先輩の私も知恵を絞って案を考えました。「未来も読める」には、当館が収集・保存する資料が未来においても利用可能であること、当館の提供する情報・サービスが未来を読む（見据える）ことを可能にすること、という二重の意味を込めました。

職員による投票の結果、私の案は上位には入りませんでした。1位は、関西館Oさんの「つなぐ、とどける、過去から未来。」でした。余談ですが、同期入館のSさんが、私の案に「投票したよ」と後で教えてくれたのは、嬉しかったです。

その後、70周年記念事業実行委員会による検討等を経て、Oさんの「つなぐ、とどける、過去から未来。」と私の「未来も読める図書館へ」を原案とする「過去を読み、未来を読む。」が、昨年8月、標語に決

定されました。

私の案が標語の原案として採用されたのは、「未来」と「読む」という語を選んだことが評価されたからだそうです。私の案から「未来」と「読む」が、Oさんの案から「過去」と「未来」が抽出され、「過去を読み、未来を読む。」ができあがったこととなります。ハイブリッドな標語といえるかもしれません。

同期入館のMさんに、標語決定を報告した際、「70周年記念の立役者」と少々からかわれたのですが、実際には、Mさんを含め、国立国会図書館に関わるすべての人々が立役者なのではないでしょうか。国立国会図書館が、「未来も読める図書館」として、「過去を読み、未来を読む。」を体現していくためには、私たち職員の努力はもちろん、関係各位のご理解やご支援が不可欠です。標語案を考えたことで、一職員として、過去を礎に、多くの人々とともに未来に進んでいくという思いを強くすることができました。と言うとやや大袈裟でしょうか。

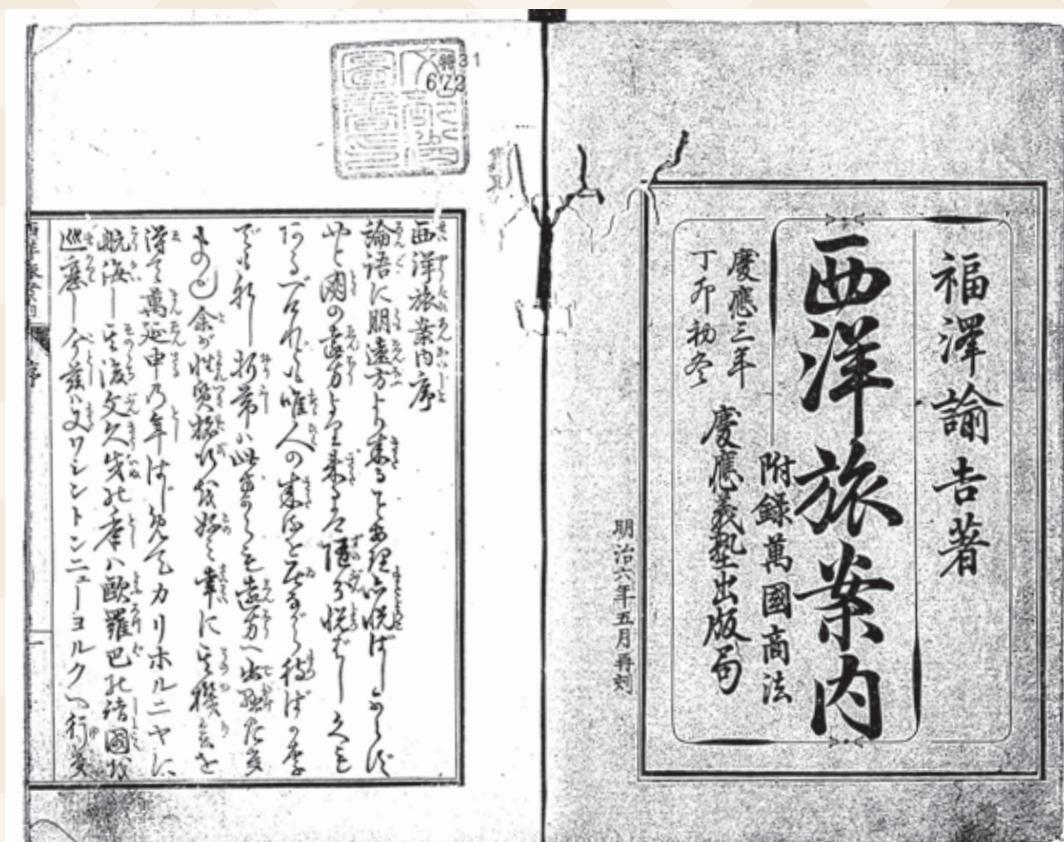
（サービス運営課 水菓子）



開館70周年のチラシ。真ん中に標語が載っています。

ハイブリッド？





行こう！ 墨の国！

藤田 壮介



今回の本は、福沢諭吉著、って書いてあるね。あの
一万円札の福沢諭吉？

そうだよ。慶應義塾の創設者としても知られているよ
ね。『学問のすゝめ』が有名だけど、今日は『西洋旅案内』
という本を取り上げるよ。

「明治六年五月再刻」って書いてあるけど、明治の本
でも変体仮名は使われてたの？

この本はもともと慶應三年に出されたもの、という事
情もあるけど、明治になったからってすぐに変体仮名
を読める人がいなくなっちゃいけないからね。当時
の人たちにとっては、変体仮名を使っている本を読む
方が自然だったんだと思うよ。

読み慣れている字の方がいいもんね。

それじゃあまずは「西洋旅案内序」の最初のところを
見てみよう。本文が始まって五行目の「余が」の前ま
で読んでごらん。振り仮名がない漢字として、一番最
後に「也」、途中に「此方」、が使われているから気を
付けてね。

しゅっぱーつ！



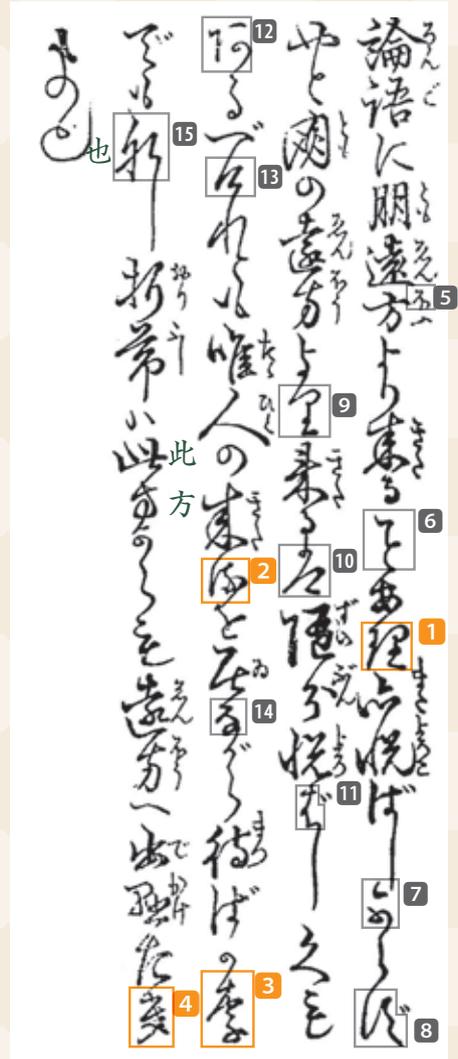
ちょっと多めに
復習しておこう



6は「こと」
合略文字だね

者	11は	本	5ほ
阿	12あ	可	7か
介	13け	須	8す
奈	14な	里	9り
那	15な	盤	10は

1
理
2
流
3
李
4
幾



ル も ヌ

「も」のくせが
つよいなあ



え〜と。「ろんご」にもえんほふよりきたることあ…
またよろこばしからずやとものえんほうよりきたる
はずいぶんよろばしくもあるべけれどまたひとのき
た：をぬながらまつばか：でもなしおりふしは此方か
らもえんほうへでかけた：もの也」あゝ、つかれた。
でも結構読めたぞ！

そうだね、今日は調子が良さそうじゃない。
ふふ〜ん。

君は記憶力がいいから、そろそろ教えるのも終わりが
近いかもね。

もうちょっとで卒業!? やったー!

うん、その勢いで今日も新しい文字を覚えていこう。

1は「理」が崩れてできた仮名で「り」。この字の右
側の部分は二行目にある「り(里)」とおんなじだよな。

ホントだ、おんなじだ!

2は「る」だけど、元の漢字は何か分かる?

左側が縦棒になっているから、「シ(さんずい)」か「イ
(にんべん)」の漢字? 「言(ごんべん)」もこうなる
んだっただけ?

よく覚えているね。そうそう、この字の部首は「シ(さ
んずい)」で、「流」って字なんだ。
のように崩れていったんだよ。

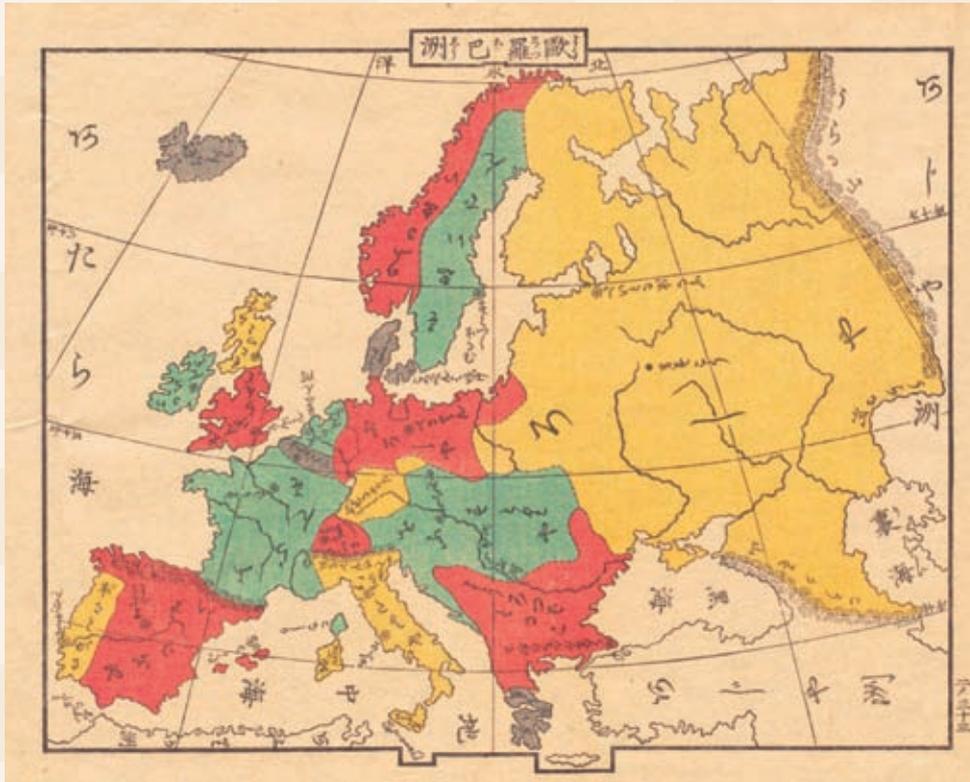
流 ↓ 流

「シ(さんずい)」だから、前に出てきた「満」にちよっ
と似てるね。

こちらからも
出かけよう!!



論語に「朋遠方より来ることあり、亦悦ばしからずや」と。朋の遠方より来るは随分悦ばしくもあるべけれど、唯人の来るを居ながら待つばかりでもなし、折節は此方からも遠方へ出掛けたいもの也。



海外旅行いいね!
どこに行こうかな?



地学事始

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1911091/35>

そして、**3**は「李」という漢字がもとになった「リ」だね。そんなに形が変わっているわけじゃないでしょ。言われてみればたしかにそうだね。でもその左隣の**4**はなに?元の漢字が想像できないよ。

これは確かにけっこう形が変わっているから分りにくいね。元の漢字は「幾」で、これがもつと崩れて今の「き」になったんだ。**幾** ↓ **羨** ↓ **き** のようにね。

そうなのかも。「き」の元って結構、こちゃこちゃした漢字だったんだなあ。

この文章は、論語にあるように友達が遠くから来るのも嬉しいけど、待つばかりじゃなくて、たまにはこちらからも遠方へ出かけたくなるものだ、って言ってるね。「よろばしく」ってなるところも「よろこばしく」ってことでもいいんだよね?

そうだろうね。漢字は一回目と同じく「悦」だしね。オイラもどこかに出かけたいなあ。

じゃあ変体仮名を覚え終わったら、卒業旅行をしておいでよ。

それいいね!どこ行こうかな。

その前にちゃんと覚えてもらおうけどね。さつき読んだところのすぐあとは、もう読める字がほとんどだからちよっと飛ばして、終わりの九行分を読んでみて。長いけど一気に最後まで読んでね。「人」と「又」だけ漢字が混ざっているよ。

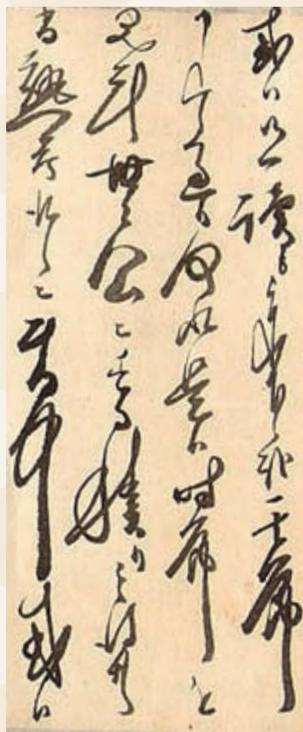
福沢諭吉と出版

『西洋旅案内』は、慶応3（1867）年に初めて世に出た時は、芝神明前にあった尚古堂から発行されていますが、今回取り上げたものは慶応義塾出版局から明治6（1873）年5月に出された再刻版です。福沢諭吉は、著作権（コピーライト）の考え方を日本に紹介したり、慶応義塾に出版局を設けて「日本における大学出版人の祖」とも呼べる役割を果たすなど、著述家にとどまらず出版人としても活躍をしています。

明治初期は、まだ紙面を丸ごと一枚の版木に仕立てて刷り上げる木版印刷が主流でした。木版印刷では、手書きの文字を元に版木を彫ることで、手書き文字を再現するように印刷することができます。今回出てきた「な（那）」の最後の線が縦に長く伸びているのは、福沢諭吉の文字の特徴といえ、他の福沢諭吉書簡にもそのような例がみられます。

慶応義塾図書館内には慶応義塾で出版された福沢諭吉や門下生の著作の版木が残されています。図書館に保管されていたもの以外に、福沢邸の応接間の床板に使われたり、慶応義塾幼稚舎の図書室閲覧席のつuitateに埋め込まれたり、と再利用されていたようです*。

*参考文献：都倉武之「福沢諭吉著作等の版木について—その現状と来歴—」（『MediaNet』No.17、2010年）



福沢諭吉書簡 榎本武揚宛
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8737515>



う〜んと、「いみあさけのば」じゃ変だから…そうか！
「いみあさければ」でどう？

そうだね、正解。書き始めと文字の右肩のところが
ちよつと「の」と違うね。もう一つは？

「むゑきのことなしり」のところは、どれも合ってる
と思うんだけどなあ。でも意味わかんないしなあ。え
〜つと…あつ!! ひよつとして「むゑきのことなり」な
の？「し」に見えたのは「な」の続きだったんじゃない？
よく分かったね。「な」だけとても縦長になっている
から、間違えやすかったと思うよ。でもこれで間違っ
ていたところを直すのは終わり。

よし、じゃあ次は新しい字を覚えてやるぞ。

17と**19**は「類」が元になった「る」。右側の部分の「頁」
は、さつきも出てきた「須（す）」と同じでしょ。

う〜ん、そうかも。

18も「る」だけど、これは「累」という漢字が元になっ
ているんだ。今回は「る」が三種類出てきたね。

同じ文章内でも、やっぱりいろいろなのが使われてる
んだね。そういえば前に「す」が何種類も出てきたこ
とがあったっけ。

さて、残りは「な…こ…」の二文字だよ。**20**は

「き」なんだけど、「元」になっている漢字は「支」で、

支 ↓ 𠂔 と崩れてきたんだ。

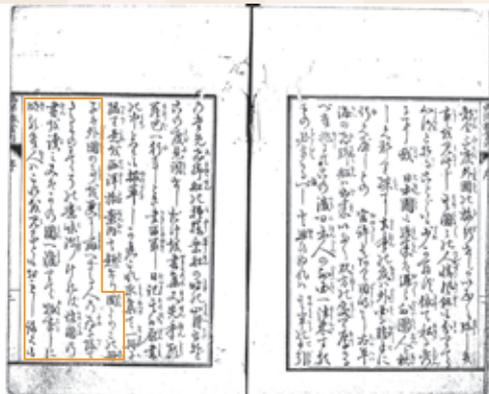
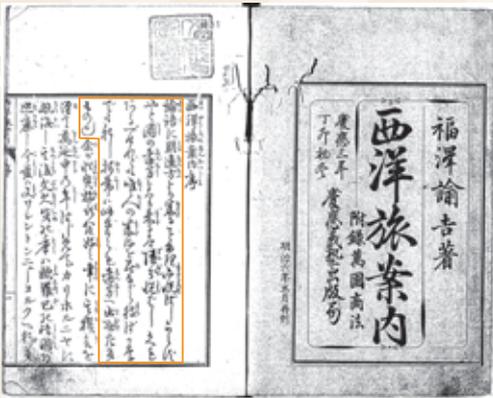
へえ〜、「支」が「き」なんだね。

メキシコ 墨西哥

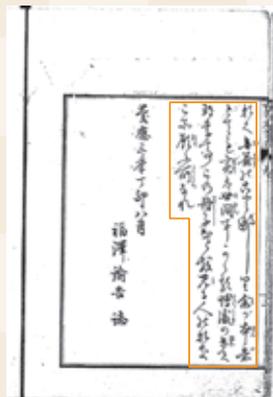
固よりこの冊子は外国の事を更に弁へざる人のために綴るりたるものにて、その意味浅ければ、彼国の書を読み、又はかの国へ渡りて物事に明るき人は、これを見るもおもしろくもなく無益のことなり。余が本意とても実は世間にかかる博識の多くなりて、この冊子などを見る人のなきこそ願ふ所なれ。



墨がたくさんあるのかな～



今回は枠線で囲った部分を読みました。間の部分もきつと読めるよ！



多分ないよ！



ふむふむ



そして「21」は「そ」だよ。「人のなきこそ願ふ所なれ」で係り結びになっているよね。この「そ」の元になった漢字は「所」。出てきたところのすぐ下に漢字の「所」も使われているけど、なんとなく似てるよね。

なるほどなるほど。さて、なんて書いてあるんだらう。ふむふむ……。この本は、あまり外国に詳しくない人向けに、外国のことを紹介するために書かれたんだね。世間の人の知識が増えて、この本が必要なくなればいなんて、諭吉さんは自分の書いた本のことをそんなふうに考えていたのか。

よくできたね。ところで、君は外国に行ったことはあるの？

オイラはまだ日本から出たことないや。外国に行くならメキシコがいいな。

どうして？

墨がいっぱいありそうだから。

(絵・正保五月)

5月号宿題の答え

真乗院(しんじやうめん)に、盛親(じやうしん)僧都(そうづ)とてやんごとなき智者(ちしや)有けり。いもがしらといふものをこのみて、おほくくひけり。談義(だんぎ)の座(ざ)にてもおほきなる鉢(はち)にうづ高(たか)くもりてひぎもとに置(をき)てくひながら文(ふみ)をもよみけり。

本屋に

ない本

美味しい卵かけご飯において最も重要なのは何であろうか。卵だという意見もご飯だという意見もあるだろうが、なんといっても味の決め手になるのは醤油である。それでは美味しい卵かけご飯にたどり着くためには、どのような醤油を選んどどのように食べるのがよいのか。その答えが書いてあるのが今回紹介する『醤油手帖』である。

本書では、普段何気なく目にしていく醤油について詳しく解説されている。醤油はどのようにして造られるのかをはじめとし、濃口醤油と淡口醤油や、特選と特級と上級の違いといった、目にはしていても意外と知らない醤油の種類などが書かれている。醤油についての説明だけではなく、ポン酢やス

イツ向けの醤油など醤油加工食品についての紹介もある。もちろん、冒頭の答えとなる卵かけご飯専用醤油についても紹介されている。

本書は醤油研究者である著者のブログを元に作られた同人誌である。醤油研究者との肩書きで呼ばれているからには醤油一筋なのかと思いきや、醤油を研究し始めたきっかけはグルメ漫画に出てきた塩に興味を持ったことなのだとか。塩を集めているときに出会った「いかなご魚醤」をきっかけに、塩よりも醤油の方が味わいの幅が広いのかもしれないと考えるようになり、醤油について調べ始めたそうだ。それ以来、全国の醤油を収集しており、『醤油手帖』の醤油も全て著者が実際に購

入し味わったものである。

ちなみに、手帖と題していることに着想を得て、手帖サイズで醤油のマークがついているノートのような装丁となった。注目していただきたいのは裏表紙である。一見、醤油のしみができてしまったのかと見まがうようなデザインとなっている。

今回紹介しているのは『醤油手帖 基礎知識編』だが、冒頭の卵かけご飯醤油についてより詳しい『醤油手帖 たまごかけご飯醤油百科』や、『塩の知識 醤油手帖番外編』、『酢の知識 醤油手帖番外編』など様々な手帖が展開されている。ここまででお気づきの方もいらっしゃるかもしれないが、『味噌の知識』もしくは『砂糖の知識』も

次作以降に作成される予定である。

ところで、このコーナーのタイトルは「本屋にない本」なのだが、実は『醤油手帖』、本屋にもある。正確には、今回紹介している同人誌『醤油手帖』は本屋にはないのだが、2014年に河出書房新社より「本屋にある」パージョンが出版されているのだ。今回紹介している同人誌に比べると少し大きい手帖サイズで、それぞれの醤油についてパラメーターが付されるなど、基礎知識編である同人誌版『醤油手帖』に比べてより細かい情報が載っている。読み物としての同人誌版と、より事典的な河出書房新社版、あわせてお手に取ってみたいかがだろうか。

(田村なつみ)



(表紙)

(裏表紙)

醤油手帖 基礎知識編 第3版

杉村啓 著
2016.6 107p 18cm
<請求記号 PC51-L9>

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

子どもの 本よ、世界へ



講演会

ー ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの

届け!

平成 30 年 2 月、国際子ども図書館は、欧州の代表的な児童図書館であり、国際的な児童書研究センターでもあるミュンヘン国際児童図書館 (Internationale Jugendbibliothek. 以下、IJB) のクリスチアーネ・ラーベ館長を招き、講演会を開催しました。



IJBは、1949年、第二次世界大戦後の荒廃したドイツの子どもたちのため、ユダヤ系ドイツ人のイェラ・レップマンにより設立されました。現在はミュンヘン市内の古城に約140言語63万冊以上の書籍を所蔵し、作家のエーリヒ・ケストナーやミヒャエル・エンデ等のミュージアムを有する大規模図書館となっています。

講演でラーベ館長は、IJB創設の経緯と概要、日本との関係に触れた後、本を介して子どもたちの国際理解を促進させることを目的としてIJBが行う多様な活動を紹介しました。

IJBでは、世界各国言語ごとに専門家が行う選書に基づいて蔵書を構築しており、それがすべての活動の基盤となっています。中でも、テーマの普遍性や文学性、デザインに優れた各国の児童書は年刊の目録『ホワイト・レイプンズ』に収録され、世界に紹介されます。IJBが隔年で開催する「ホワイト・レイプンズ・フェスティバル」では、子どもたちの多文化理解推進のためのワークショップやパネルディスカッションといったプログラムを様々な国の作家を招いて展開しています。

また、子どもの本は、異文化理解のための重要なツールでもあることから、近年では特定地域に焦点を当てたプロジェクトも行って

おり、昨年からは難民急増に対応してアラビアの児童文学を紹介するプロジェクト「山は互いには近づけない。けれども、言葉は」を開始しました。

そのほか、平和教育の一環として20年以上にわたり開催している巡回展示「ハロー・ディア・エネミー!」、難民の子どもたちのためのプロジェクト、ダッハウ強制収容所を訪問し、歴史について学ぶ平和のためのワークショップ等も行っています。

図書館の枠組みを越えたIJBの意欲的な活動は、国際子ども図書館の理念「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く!」にも通ずるものであり、大変に参考になりました。

最後にラーベ館長は、「本は子どもたちにとって世界の扉を開く鍵であり、図書館員はその鍵を手持っています。正しい扉を開くことは、私たちの責務であり、幸運でもあります。」と述べて講演を結びました。

今回の来日は、ラーベ館長にとって日本の児童書を知る機会にもなったようです。当館で日本の子ども本の歴史を紹介する展示室である「児童書ギャラリー」を訪れたラーベ館長は、好奇心に満ちた眼差しで熱心に、かつ楽しそうに日本の絵本等を鑑賞しておられました。

(国際子ども図書館企画協力課)



IJBは、1949年創立時にはミュンヘン市の中心地にありましたが、蔵書の増加に伴い、1983年にミュンヘン郊外のブルーテンブルク城という中世の古城に移転しました。この古城は、バイエルン公アルブレヒト3世の命で1430年代に建てられた城です。20世紀に入り、かなり荒廃した状態だったのを、バイエルン州が城の修復と共に歴史建造物に指定し、内部を図書館用に改築したそうです。

お城には全部で塔が4つありますが、そのうちの1つがジェイムス・クリュスタです。クリュス(1926-1997)はドイツの代表的児童文学作家で、ドイツ児童文学賞、国際アンデルセン賞などを多数受賞しており、ドイツの子どもたちは学校や家庭でみな一度は彼の本や詩を読んでいるそうです。

遺品、作品などが寄贈された際、小さなお城には空いた空間がなく、中世の火薬塔だったこの塔に白羽の矢がたちました。小窓が一つしかない塔には、鉄のらせん階段が備え付けられ、クリュスのモチーフである灯台の内部をイメージした展示スペースになっています。



開館70周年
記念展示

開館70周年を記念して、幅広い蔵書の中から魅力ある様々な本を紹介する展示会を、今秋に行います。本誌では、会期までの間、主な展示資料を少しずつお見せします。

本の玉手箱

— 国立国会図書館 70 年の歴史と蔵書 — から ④



何の鳥かわかりますか？

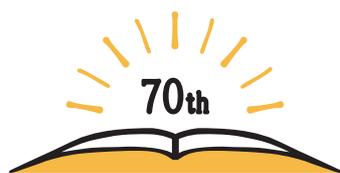
The birds of America <当館請求記号 YP19-285(1)>

当館最大の本は“The birds of America”。103×68 cm。原寸大で鳥を紹介した本です。ここでは部分的に、とある鳥の顔を、本に描かれた大きさと同じサイズでお見せしました。

右は、展示資料選定のためにその本を広げてみたところです。大きさがお分かりになるでしょうか。

一方、当館最小の本は『蟻』。0.14×0.14cm。表紙の比率でいえば、“The birds of America”の35万～36万分の一。『蟻』を一畳とすれば、“The birds of America”は甲子園球場15個分ほどの大きさ、という計算になります。

大きな本と小さな本、その差を是非会場でご覧ください。



過去を読み、未来を読む。

東京会場 国立国会図書館東京本館 新館展示室

10.18 (木) — 11.24 (土)

関西会場 国立国会図書館関西館 大会議室

11.30 (金) — 12.22 (土)

休館日、展示替え等の最新情報は、ホームページ>国立国会図書館開館70周年記念のページでご確認ください。

NDL Topics

複写料金改定についてのご案内

平成30年7月2日(月)から左記のとおり、複写料金を改定いたします。

複写メニュー	色/資料形態	サイズ/分量	改定後(円)	現行(円)
電子式複写 本などを普通紙にコピーします。 「セルフ」は関西館のみのメニューです。	白黒	A4・B4	24.84 (23+税)	25.92 (24+税)
		A3	43.20 (40+税)	51.84 (48+税)
		A2	124.20 (115+税)	103.68 (96+税)
		セルフA4・B4	15.12 (14+税)	15.12 (14+税)
		セルフA3	-	30.24 (28+税)
	カラー	A4	97.20 (90+税)	-
		A3	118.80 (110+税)	140.40 (130+税)
電子情報等のプリントアウト 端末で閲覧したデジタルデータを普通紙に印刷します。 デジタルマイクロリーダー経由でマイクロ資料を普通紙に印刷します。 「遠隔」は遠隔複写サービスでデジタルデータの印刷を申し込んだ場合の料金です。	白黒	A4・B4	15.12 (14+税)	15.12 (14+税)
		A3	30.24 (28+税)	30.24 (28+税)
		遠隔A4・B4	24.84 (23+税)	21.60 (20+税)
		遠隔A3	43.20 (40+税)	43.20 (40+税)
	カラー	A4・B4	36.72 (34+税)	49.68 (46+税)
		A3	99.36 (92+税)	99.36 (92+税)
		遠隔A4・B4	59.40 (55+税)	54.00 (50+税)
遠隔A3	102.60 (95+税)	108.00 (100+税)		
マイクロからの電子式引伸 マイクロ資料を普通紙に引き伸ばします。	白黒	A4・B4	75.60 (70+税)	32.40 (30+税)
		A3	108.00 (100+税)	64.80 (60+税)
撮影によるマイクロフィルム作成 本などを撮影してマイクロフィルムを作成します。	白黒	1コマ	140.40 (130+税)	162.00 (150+税)
		以降1コマ	-	41.04 (38+税)
マイクロからマイクロへのプリント マイクロ資料からマイクロ形態の製品を作成します。	マイクロフィルム	30cm	129.60 (120+税)	162.00 (150+税)
		以降30cm	-	73.44 (68+税)
	マイクロフィッシュ	1枚	226.80 (210+税)	162.00 (150+税)
裏写りの防止に係る費用(入り紙)		1枚	14.04 (13+税)	10.80 (10+税)
発送事務手数料		国内1件	216.00 (200+税)	162.00 (150+税)
		海外1件	350.00	300.00

○問合せ
 利用者サービス部 複写課
 電話 03(3581)2331(代表)

資料の高騰等の理由により一部引上げとなるメニューがありますが、利用の多いメニューを中心に下げをいたします。
 何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。



#7
 東京本館敷地入口に設置した
 70周年記念看板

納本制度70周年記念国際シンポジウム「納本制度の過去・現在・未来—デジタル化時代における納本制度の在り方について—」(国立国会図書館開館70周年記念行事)

納本制度とは、図書等の出版物をその国の責任ある公的機関に納入することを発行者等に義務づける制度のことです。日本では、国立国会図書館がこの制度の運用を担っています。納本された出版物は、現在と未来の多くの読者のために文化的資産として永く保存され、国民の知的活動の記録として後世に継承されます。

日本の納本制度は、国立国会図書館の開館と同年に運用を開始し、今年で70周年を迎えます。この間、出版形態の多様化や時代の変化に即して見直しが行われてきましたが、とりわけ近年は、資料や情報のデジタル化の影響を受けて、納本制度は世界的にも大きな転換期を迎えています。

この度、納本制度に関するシンポジウムを開催します。各国における納本制度の歴史と現状、デジタル化時代における課題と取組に焦点を当て、納本制度の意義について再確認するとともに、今後の在り方について考えます。

日英同時通訳付き、入場無料です。ぜひご参加ください。

- 日時 7月11日(水) 14時~16時50分
- 会場 東京本館 新館講堂
- 登壇者

田村俊作氏(慶應義塾大学名誉教授)
ウルリケ・ユンガー氏(ドイツ国立図書館収集書誌

部長)
メレディス・バットン氏(オーストラリア国立図書館資料管理部国内資料課課長補佐(特別コレクション担当))
山地康志(国立国会図書館収集書誌部長)

○申込方法 ホームページ「イベント・展示会情報」から7月6日(金)までにお申し込みください。定員(250名)に達した時点で受付を終了します。

○問合せ先 国立国会図書館 収集書誌部

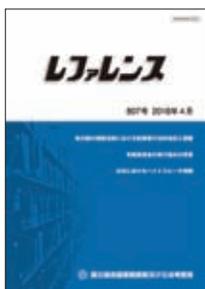
収集・書誌調整課納本制度係 nosei@ndl.go.jp

新刊案内

レファレンス 807号

我が国の相続法制における配偶者の法的地位と課題
労働者賃金の伸び悩みの背景—雇用形態と人口構成の
変化を踏まえて—

日本におけるヘイトスピーチ規制—ヘイトスピーチ解消法をめぐって—



A4 73頁 月刊 1,000円(税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ
日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812

国立国会図書館の平成30年度予算

国の平成30年度予算が平成30年3月28日に成立しました。国立国会図書館の平成30年度歳出予算額は、230億7613万1000円です。その概要は、表のとおりです。

平成30年度歳出予算額 (単位:千円)	
(項) 国立国会図書館	18,188,735
人件費	9,552,075
国立国会図書館共通経費	172,425
国会サービス経費	408,680
資料費	2,335,940
うち納入出版物代償金	390,248
情報システム経費	3,096,889
東京本館業務経費	1,508,018
国際子ども図書館業務経費	269,652
関西館業務経費	845,056
(項) 国立国会図書館施設費	4,887,396
関西館第2期第1段階施設整備費	3,636,352
東京本館庁舎整備費	1,095,434
関西館庁舎整備費	155,610
計	23,076,131

予算の費目別構成比(平成30年度)



6

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 1 8 . 6

NO.686

JUNE
2018

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Find a long-lost missionary in Africa! The adventures of a British journalist
- 04 The 70-year history of the National Diet Library
as seen in photographs
- 17 Browsing library materials — Reading Japanese written in variant kana 6
The world of *Sumi* (Indian ink)
- 24 Lecture at the International Library of Children's Literature
“Mission and role of the International Youth Library and its recent important projects”
- 16 <Tidbits of information on NDL>
A “hybrid” slogan?
- 23 <Books not commercially available>
Shoyu techo
- 26 From the 70-anniversary Commemorative Exhibition — A Treasure Box of Books:
The History of the National Diet Library and Its Collections
The birds of America
- 27 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成30年6月号 (No.686)

平成30年6月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集責任者 三浦良文

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<http://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 1 8 . 6

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六